

まぼろしへのかけはし

基本理念 希望のある医療

抗菌化学療法認定薬剤師の活動

日本化学療法学会
日本病院薬剤師会

抗菌化学療法認定薬剤師
感染制御認定薬剤師
有本 忍



抗菌化学療法とは

抗菌薬などを使用した感染症治療の事を抗菌化学療法と言います。1980年代から2000年代までは50種類以上もの抗菌薬が開発され、感染症治療は著しく進歩しました。しかし、何年も使われる糖尿病や高血圧の薬と違い、長くて数週間しか使われない抗菌薬は製薬会社にとってのメリットも少なく、その開発は減少の一途をたどっています。

一方で、細菌は生き残りをかけて耐性化（薬に対して抵抗力を持つ事）をしています。どのような抗菌薬もいずれは耐性菌が出現します。「抗菌薬の効かない感染症で、多くの命が脅かされる」そのような時代がくるかもしれません。そうならないためにも私たち抗菌化学療法認定薬剤師は、今、目の前の感染症治療だけではなく、将来の感染症治療をも見据えて抗菌化学療法を勉強しています。

抗菌薬は、同じ投与量でも使い方によって大きく効き目が変わります。また、患者さまの状態（例えば腎機能の低下など）により投与量を減量しないといけない時もあります。それぞれの抗菌薬の特徴を熟知し、安心して最適な抗菌化学療法を目指して、これからも医師と共に患者さまのお役に立ちたいと思っています。

インフルエンザが流行期に入りました インフルエンザの特徴

潜伏期間 1～3日

感染経路と予防の方法 飛沫感染と接触感染



インフルエンザにかかった人の咳やくしゃみなどによりウイルスを含んだ飛沫が大量に飛び散り、それを吸い込むことによって感染します。 ← 飛沫感染 マスクが有効
また、インフルエンザウイルスは比較的乾燥に強く、飛沫が付いた環境では何日もウイルスが生息しており、それを触った手から感染します。 ← 接触感染 手洗いが有効

ウイルスの排出 発症前日～発病後7日間くらい

解熱に伴いウイルスの出る量も減りますが、他人に感染させないレベルには解熱後2日が必要です。しっかりと休養して周りにうつさないようにしましょう。

症状 突然の高熱に伴い頭痛・咳・筋肉痛・関節痛
発熱期間は通常3～7日

インフルエンザにかかったら・・・

インフルエンザの薬は体内に入ったインフルエンザウイルスを殺すわけではなくウイルスが体内で増えるのを阻止するだけです。いったん体内に入ったウイルスは、体の免疫機能がやっつけてくれるのを待つしかありません。

インフルエンザにかかってしまったら何よりも**十分な休養・十分な水分**補給で、体の免疫機能を高めましょう。

また、部屋の湿度を 50～60%に上げることにより、ウイルスの感染力はぐっと下がります。

(家庭内感染をある程度防げます)

お知らせ

1. 医師の異動について

2月1日より **外科** 深瀬 圭吾 医師が着任いたします。



2. 今月のホッとひと息寄り道講座

テーマ **知って得する医療費 あ・れ・こ・れ**
講師 看護師
日時 2月10日(月)、26日(水) 10:00～10:30
場所 正面玄関ホール 公衆電話前

3. 生活習慣病予防教室

テーマ **「画像から体内を見てみよう！」 血管や骨の検査について**
講師 放射線技師
日時 2月19日(水) 13:30～14:30 (受付13:00～)
場所 2階講義室
参加費 無料
持ち物 筆記用具・メモ帳

2月は、全国生活習慣病予防月間です。

今年の**テーマ**は“**多動**” **スローガン**は、“**運動で 減らす体重 増す寿命**”です。
生活習慣病の予防を意識して、ぜひ生活に運動を取り入れてみましょう。



きほうへのかけはし

に関するお問合せは、

地域医療連携室までお願いします。

連絡先 〒676-8585 兵庫県高砂市荒井町紙町33番1号
TEL 079-442-3981(内線5146)
FAX 079-443-1401
ホームページ <http://www.hospital-takasago.jp/>